

新大病院たより **和**

第42号

(標題：中野雄一 元病院長)

新外来診療棟開院間近！

平成24年11月26日(月)に
診療を開始します



11月26日より、外来玄関はココになります



4月23日に無事に竣工し、11月の開院を待つばかりの新外来診療棟その中身をちょっとだけ公開します！

新外来診療棟 フロア構成	
6階、屋上	ヘリポート
5階	歯科(外来手術室など)
4階	歯科
3階	小児科、小児外科、産科婦人科、麻酔科、泌尿器科、皮膚科
2階	検査部(中央採血室ほか)、内科、神経内科
1階	整形外科、形成外科、第一外科、第二外科、脳神経外科、眼科、放射線科
エントランス階(B1)	耳鼻咽喉科、精神科、地域保健医療推進部、外来玄関、総合受付

※赤字の部署は、すでに新外来診療棟にて業務を開始しています



エントランス階の総合受付前は広々とした開放的な空間です



外来玄関にはエスカレーターも稼動し、上下階への移動も楽々



各診療科の受付はフロアごとになり、よりスムーズなご案内を目指します

新外来診療棟稼動に向けた引越し作業のため、**11月21日(水)・22日(木)**は休診とさせていただきます。予約のご相談は、主治医までお申し出ください。

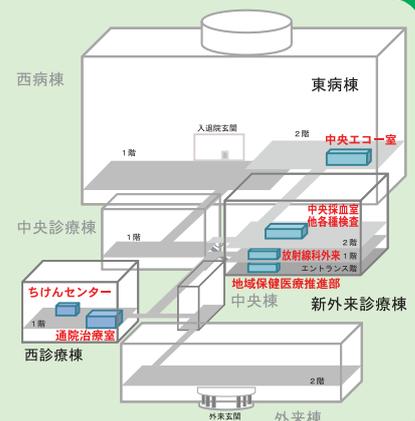
移転のお知らせ

病院再開発にとまない、新しい建物での診療を開始しています。

新しい場所はこちらです！

- 中央エコー室……東病棟 2階
- 放射線科外来…新外来診療棟 1階
- 通院治療室……西診療棟 1階
- 地域保健医療推進部…新外来診療棟 エントランス階
- ちけんセンター…西診療棟 1階
- 中央採血室 他各種検査室 …新外来診療棟 2階

※当院は傾斜のある土地に建てられているため、外来棟と他の建物の階数表示が違います。ご注意ください。



行き先が分かりにくい場合は、お近くの職員にお気軽におたずね下さい。

医療人育成センター整備計画案が始まっています

医師不足については全国的な問題となっていますが、新潟県においても人口10万人当たりの医師数は、平成20年12月末現在で187.5人と全国41番目となっており、他の地域と比べても極めて深刻な状況となっています。

この問題を解決していくためには、研修医の確保、若手医師の定着が重要であることから、新潟県では地域医療再生計画の中で、研修医や若手医師等に対する研修プログラムや研修・指導体制の充実による研修環境の整備を行うことが決定されました。

その計画の中核として、新潟県全体の医師、看護師等の医療人育成の拠点となる「医療人育成センター」を新潟大学に設置することが決定され、平成25年度末までに整備を行うこととして事業内容等の具体的な検討が行われています。

計画されている医療人育成センターには、収容人員200名規模の講堂、70名規模の講義室が設置され、講義形式での医療人教育の実施と研修会や勉強会等の開催を可能とす

るとともに、医師や看護師等の医療人の臨床技術の習得を可能とする模擬手術室や模擬病室、内視鏡や手術等の医療技術、看護技術習得のための各種シミュレーターを設置し、専門医教育や各種医療技術習得をサポートするシミュレーションセンターを設置する予定となっています。また、研修医が時間を気にせずに自学自習を行う環境を提供するための研修医室も計画されています。

センターの設置場所は、医学部大講義室前のロータリー部分となっており、外部から利用しやすいようアクセスに配慮することとしています。

現在、シミュレーションセンターに設置する模擬手術室の中身や、設置するシミュレーターなどの詳細や運用方法等について、院内からの要望・意見や他大学等の同様な施設等を参考にしながら検討を行っております。

(経営企画課長 高見澤昭彦)



大講堂(200名が収容可能)



講義室



研修医室

※イメージ画像

東日本大震災医療支援に対する感謝状をいただきました

新潟大学医歯学総合病院では、平成23年3月に発生した東日本大震災において、発災直後から被災地へのDMAT隊の派遣、被災患者の受入、約一ヶ月にわたる岩手県宮古市への医療班派遣等、様々な場面の医療支援活動を行ってまいりました。

これらの活動に対して、新潟県知事から、平成24年6月13日新潟県庁で開催された感謝状贈呈式において、被災地および被災された方々のために尽力し、被災地の復旧・復興に貢献したとして感謝状をいただきました。



感謝状の贈呈を受ける遠藤裕副病院長（左）

中央診療施設紹介 ⑫

検査部

検査部は、血液・尿などの成分分析を行う検体検査部門、心電図・呼吸機能検査・脳波などの計測（生理検査）を行う生体検査部門、微生物検査や遺伝子検査を行う生物検査部門の3部門からなり、外来患者さんの検体採取を行う中央採血室と採尿・採痰室も併設されています。これらの施設により、年間約8万人の採血、年間400万件を超える200種類以上の臨床検査を日々実施して、当院の診療を支えています。検査室の多くはこれまでは東診療棟と西診療棟にありましたが、新外来診療棟の竣工を機に設備を一新し、この6月から外来部門に先行して新外来診療棟2階と改修された西診療棟2階に移転して業務を行っています。

検査部の責務は精密な計測を行って診療に役立つ正確な検査結果を報告することですが、当検査部ではさらに、地域の基幹病院として多数の遠方からの患者さんを受け入れる当院の役割に鑑み、外来検査の迅速化を重点的に取り組んできました。このため今回の移転にあたっては、採血システムや検査装置の大幅な処理能力の向上を図り、採血待ち時間が短縮されただけでなく、検査の実施についても多くの場合採血後30分以内に検査結果が報告できるようになりました。検体の前処理

や分析には最低でも20分以上を要するため、このスピードは迅速化の限界に近く、これだけ多くの患者さんの診療を行う病院としては最速のレベルに達していると思っています。

このほか、入院患者さんの様態の変化や救急医療に対応するために当直体制を導入して、夜間・休日を問わず年中無休で必要な検査が実施できるようにしています。また、院内感染予防のための感染管理業務では検査部の微生物検査室が重要な役割を果たしていますし、医療事故防止のための安全管理や臓器移植のための脳死判定、栄養管理、治験などにも深く関わっています。検査部は、採血室や生理検査室以外は日頃患者さんの目に触れることの少ない部門ではありますが、これらのさまざまな活動を通じて当院の高度先進医療や質の高い安全な医療を支えています。

(検査部 副部長 松戸隆之)



検査部受付



中央採血室



自動分析装置群



病気の基礎知識

13

歯の欠損とインプラント

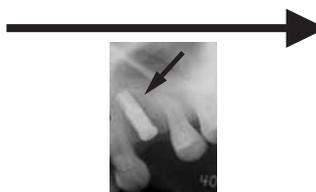
虫歯や歯周病で歯を失った場合、咀嚼機能を損なわないためには何らかの形で歯を補う必要があります。このことを「補綴（ほてつ）」と呼びますが、その方法にはいくつかあります。取り外しのいわゆる「義歯（入れ歯）」を入れる方法、無くなった歯の両側の歯を削って冠を被せ、これとつないで取り外しではない「ブリッジ」を装着する方法、そして歯が無いところの骨に直接人工の歯根を埋め込んで冠を被せる「デンタルインプラント」です。近年注目されているデンタルインプラントは、残っている歯に負担をかけることなく、自分の歯と同じように咬めるという点で、患者さんには喜ばれる補綴方法です。現在使用されているデンタルインプラントはそのほとんどが純チタン製で、成功率は5年後に97%程度、10年後でも95%程度だと言われています。しかしながら、人工材料を生体内に埋め込むという点では決して安易に考えてはいけな治療法で、しっかりとした技術と知識を備えた歯科医師による治療が必須です。

新潟大学医歯学総合病院には平成18年からインプラント治療部が設置され、経験豊富なスタッフがインプラントによる補綴治療を行

っています。インプラントの埋め込み手術に先立って、すべての患者さんに関して治療部全員による症例検討を行い、最もふさわしいと思われる治療を提供するように心がけています。手術は点滴による沈静法を併用し、患者さんができるだけ怖い思いや痛い思いをしないようにしてあります。残念ながらごく一部の特殊な症例を除いて健康保険は適用されませんが、だからこそインプラントとは長い付き合いを前提に向き合うべきだと考えてあります。また、インプラントを埋め込むところの骨が少なく、そのままでは手術が困難な場合にも、骨の移植を含めてあらゆる可能性を検討してあります。

「食」は「命」です。私共は、大学ならではの先進的で丁寧な医療の提供を心がけておりますので、歯が無いことでお悩みの方は、是非一度相談にいらして下さい。

(インプラント治療部長 魚島勝美)



前後の歯は削らずにインプラントが埋め込まれています。

災害発生時の緊急支援物資の提供について協定を締結



協定を結ぶ塚田協和会理事長(右)、
内山病院長(中央)、宮田事務部長(左)

昨年3月に発生した東日本大震災では、本院においても被災地への医師等の派遣や医療物資等の提供という形で、出来る限りの支援をしてまいりました。

また、本院の売店等を運営している(一財)協和会からも、被災地へ向けた多くの救援物資の提供のみならず、本学DMAT出動時の飲料や食料の提供をいただきました。

この度、こうした災害発生時の対応を受け、より迅速で充実した支援へとつなげるため、本院と(一財)協和会との間で、「災害発生時における緊急支援物資の提供に関する協定」を締結いたしました。

協定により、災害発生時には、患者さんや職員の飲料水や医療派遣されるスタッフの飲食料の提供を(一財)協和会から受けられることとなりました。災害発生時にはこの支援を活かし、より一層の医療支援に尽力してまいります。

新大医学部合唱団ミニコンサートを開催♪

日時：平成24年6月8日(金)
場所：病棟12階大会議室



患者さんに温かい歌声を届けたいと、新大医学部合唱団によるミニコンサートが開催されました。

病棟12階から見える夜景を背景に、学生さんがおなじみの唱歌などを披露。会場に集まった患者さんやそのご家族は、美しいハーモニーに手拍子をしたり一緒に口ずさんだりし、楽しいひとときを過ごされました。



ボランティアさん募集

新潟大学病院では、ボランティアさんを募集しています。貴方の「優しさ」をお貸し下さい。

ボランティアさんの
活動内容

<外来玄関ボランティア>

月曜日～金曜日 9時～11時

- ・診療申込書の記入補助、代筆
- ・移動の介助
- ・病院内の案内
- ・自動再診受付機の操作案内

<海見える図書館ボランティア>

月曜日～金曜日 10時～13時/13時～16時

- ・海見える図書館の受付、図書の整理等

ボランティアさんの受入にあたっては、最低3ヶ月以上継続でき、原則として週1回以上可能な方とさせていただきます。

- ・ボランティア保険に加入していただきます。
- ・健康診断を受検していただきます。
- ・活動中は、本院が貸与するネームプレート及びエプロンを着用していただきます。
- ・活動に要する費用(交通費を含む)は、自己負担になります。
- ・駐車場は利用できませんので、公共交通機関を利用していただくことになります。
- ・活動にあたっては、「ボランティアの心得」を遵守し、活動していただきます。



<お問い合わせ先> 新潟大学医歯学総合病院 総務課 TEL 025-227-2406

職員一同、心よりお待ちしております。

新大病院たより「和」のバックナンバーは本院ホームページ
(http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/byouin/08_koho.html) をご覧ください。

発行 新潟大学医歯学総合病院広報委員会

(お問い合わせは総務課総務係 電話 025-227-2407,2408まで)